

野良猫の殺処分、少しでも減らすために…「TNR活動」進む

2020/11/19 14:51

野良猫の数を抑えて殺処分を少しでも減らそうと、津市の三重県動物愛護推進センター・あすまいるで18日、県内全域で捕獲された猫に不妊・去勢手術を施す活動が行われた。109匹は手術を受けた目印に、耳を桜の花びら形にカットした「さくらねこ」として、もといた場所に戻された。19日も66匹が施術される予定。



野良猫に不妊・去勢手術を施す獣医師（津市で）＝山本哲生撮影

公益財団法人・どうぶつ基金（兵庫県芦屋市）と県の主催。同基金のメンバーで神奈川県大和市、山口武雄さん（72）ら獣医師6人が参加、佐上邦久理事長（60）が「猫の命を救うため、慎重に手術しましょう」と呼びかけて活動を始めた。

メンバーらは、県内10保健所が仕掛けた「保護箱」（オリ）で捕らえられた野良猫に麻酔をかけ、5匹ずつ部屋へ移動させた。ボランティアが猫の腹の毛をそって耳をカットした後、獣医師が1匹あたり10分ほどのペースで手術をこなした。術後にはワクチンを接種して目薬を差し、ノミ、ダニを駆除した。

同基金が全国で展開する「TNR（捕獲、不妊・去勢、戻す、の英略語）活動」の一環で、県内では、あすまいるが開所した2017年度にスタート。同基金の活動とは別に、県も独自のTNR活動を行っており、今年度も、インターネットのクラウドファンディングで調達した396万円を元手に既に402匹を施術した。

あすまいるは、県が目標に掲げる「犬・猫の殺処分ゼロ」に向けた中核施設。施設によると、猫の殺処分は15年度の224匹から、19年度は48匹まで減った。久米徹所長は「猫は繁殖力が強く、殺処分を減らすにはTNR活動が重要。『捕まえた猫を戻すのか』との苦情は減り、一代限りの『さくらねこ』とは共生しようとの機運が高まっている」と話し、手応えを感じているという。

あわせて読みたい

- ・犬や猫がミイラ化・高さ1mのふん尿やゴミ…多頭飼育崩壊、女を逮捕
- ・殺処分しなくても「野良猫消えた」島、海鳥保護の貴重な事例に
- ・「ラピュタの道」復旧遠く…熊本地震から4年半、今も通行止め

猫の殺処分数と不妊・去勢手術件数

